

## ◎旧朝香宮邸の歴史を訪ねて

連載◆第37回 マックス・アングランによるエッチング・ガラス・プレート

### Residence of Prince Asaka 1933—

平成21年の年度末に、恒例の「庭園美術館建物公開」展を開催しました。(3月25日-4月11日)旧朝香宮邸の建築や歴史を中心にご紹介する展示会です。調査・研究を経て今回初めて展示をした資料もいくつかあります。そのなかで、今回は室内装飾に参加したマックス・アングラン(1908-1969)作のエッチング・ガラス・プレートについてご報告したいとおもいます。

第2展示室(大客室)、第3展示室(大食堂)の扉には、マックス・アングラン作の装飾ガラスが嵌め込まれています。大客室には花のモチーフ、大食堂にはブドウや洋ナシのようなモチーフがみられます。賓客をお迎えするサロン、会食をする食堂という、それぞれの部屋の用途にあわせて選ばれたデザインと考えられます。今回展示をしたガラスプレートは朝香宮邸地下室に木箱入りで長年保管



図1.大客室の扉

図2.アングラン作エッチング・ガラス・プレート(大客室用)の展示、右端はプレート裏面

\*エッチング

ガラスの表面をフッ化水素と硫酸の混合液で腐蝕させ、表面を彫るあるいは曇りガラスにする。

\*サンドブラスト

ガラスの表面に研磨剤を吹きかけて彫る方法。

\*鏡加工

平滑なガラス板の表面に銀酸化物を含む溶液を塗り、還元により銀をガラス面に沈着させる。

されていたものです。おそらく破損した場合のスペアとして扉とともに輸入されたと考えられます。大客室分19枚、大食堂分6枚が確認されています。

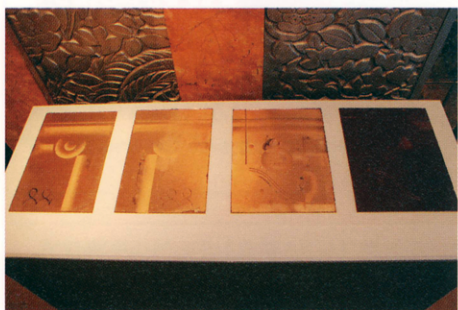


図2

透明ガラスの両面にエッチングやサンドブラストで強弱の彫り込みを施し、裏面に銀引き(鏡加工)し、保護膜(鉛丹などの塗料)で覆っています。輝く鏡の部分、エッチングを施した曇りガラスの部分、裏側から深く、またグラデーションで彫り込んだ部分が、多彩な表現を可能にしています。花や果物は記号のように様式化され、あたかもガラス

に描かれた抽象絵画のようです。マックス・アングランの作品は妻ポールがデザインを担当することもあり、アングラン夫妻の共同制作の可能性もあります。ラパンやリックより二世代若い彼は1925年のアール・デコ博覧会には参加していません。1933年の宮邸竣工時も25歳という若さですが、ラパンが副会長を務めていた装飾美術家協会に早くから出品していたので、その才能を認められラパンにより登用されたのかもしれませんが。

朝香宮邸には他にもスペアの例があります。リック作の正面玄関ガラス・レリーフ扉の女性像もスペアが存在し、宮家当時の傷が入っていた1体と平成10年に取り替えました。竣工当時、海外からの輸入品はあとから取り寄せることは難しいので、予備の品を用意させたのではないかとおもわれます。複数生産が可能なアール・デコのデザインだからこそ可能なことでした。とにかく丁寧な仕事ぶりであったといえるでしょう。(高波) ◆